

高 等 学 校

平成22年度

教育研究員研究報告書

特別活動部会

東京都教育委員会

はじめに

東京都教育委員会は、平成22年度から新たに幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員を対象に教育研究員を設置し、平成17年度まで50期にわたって行ってきた教育研究員事業を6年ぶりに復活させました。この事業は、教育研究活動の中核となる教員を養成することによって、東京都全体の教育の質を向上させることを目的としています。各教育研究員には1年間の研究活動を通して組織的な研究活動の在り方を身に付け、これからの東京都の教育研究活動の推進者となることが期待されています。

平成20年3月に告示された幼稚園・小学校・中学校学習指導要領に続き、平成21年3月に高等学校学習指導要領が告示され、全ての校種が新しい学習指導要領の本格実施あるいは本格実施に向けての移行期間に入りました。このことを受けて、平成22年度の教育研究員の共通テーマは「新学習指導要領に対応した授業の在り方について」とし、研究の柱が改訂された学習指導要領であることを明確にしました。また、今回の学習指導要領改訂の大きなポイントの一つである「言語活動の充実」については、全ての校種・部会の研究内容の中で取り組むこととしました。

これまで都教育委員会は、都立高校教育の充実・発展のために「生徒による授業評価」を活用した授業改善の促進や、進学指導重点校等での進学指導に関する協議会の開催など、生徒の学力を向上させるための取組を行ってきました。また、平成22年度からは、進学指導のマネージメントの定着を図る目的で、進学校における外部機関による進学指導診断を実施したり、学力向上に向けて実践的な研究を行う学校を指定し、高校入試結果の分析、学力向上推進プランの作成、学力調査問題の開発・実施・分析を通して学習指導の改善と充実を図ったりしてきました。

そこで、本年度高等学校の各部会においては、全校にわたる共通テーマに加え、「確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究」を高等学校全体のテーマとして設け、各部会において確かな学力を定義づけた上で、それぞれの研究主題を設定し、研究開発に取り組んできました。

この1年間、高等学校の全15部会、70名の教育研究員が、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術（音楽）、外国語、家庭、情報、農業、工業、商業、特別活動及び総合的な学習の時間の各教科等について、研究主題に基づいて研究を行い、協議を重ね、検証した内容を本報告書にまとめました。

各学校におかれましては、本報告書を有効に活用し、学力向上に向けた教科等の指導方法・内容の改善と充実に取り組んでいただくようお願いします。

平成23年3月

指導部高等学校教育指導課長

宮本 久也

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	4
	1 研究構想	
	2 実践事例Ⅰ ホームルーム活動の研究授業	
	3 実践事例Ⅱ 特別活動に関する校内研修会の実施	
	4 実践事例Ⅲ 特別活動の全体計画と年間指導計画例の作成	
VI	研究の成果	16
VII	今後の課題	16

研究主題	「望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい人間関係を築く力を育成する指導の工夫」
-------------	---

I 研究主題設定の理由

今回の高等学校学習指導要領の改訂は、平成20年1月の中央教育審議会答申で示された改善の基本方針等を踏まえて、特別活動についてはその目標や内容の見直しが行われ、目標について、以下のように示されている。

<p>第5章 特別活動 第1 目標</p> <p>望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を活かす能力を養う。</p>
--

特別活動が、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる教育活動であることをより一層明確にするため、目標に「人間関係」を加え、このことによって、集団や社会の一員として、協力して学校生活の充実と発展に主体的にかかわる教育活動としての意義が明確にされた。また各活動、行事についても、それぞれの教育活動としてのねらいと意義を明確にするため、この全体の目標を受けて各活動、行事の目標が新たに示された。

研究を始めるに当たり本部会では、まず学習指導要領の改善の背景、改訂の趣旨・要点と特別活動の全体目標や各活動・行事の目標から特別活動において育てたい能力や態度を整理し、その実現に向けての現状と課題、方策について検討を行った。

前出の中央教育審議会答申では、学習や将来の生活に対して無気力であったり、不安を感じたりしている子供が増加するとともに、友達や仲間のことで悩む子供が増えるなど人間関係の形成が困難かつ不得手になっている状況を特別活動の課題の一つとしてあげている。このことは直接生徒の指導に携わる我々教師の実感でもある。

また、今回の学習指導要領の改訂では、特別活動の目標において特に「人間関係」を築くことが重視されるとともに、新たに設けられた各活動、行事の目標については、「望ましい人間関係を形成」することが明確に示されている。

これらを踏まえ、本研究では、部会主題を「望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい人間関係を築く力を育成する指導の工夫」として、人間関係を築く力の育成に焦点を当てて研究を進めることとした。

II 研究の視点

特別活動は、主にホームルームを単位とする活動や、生徒会活動や学校行事などのようにホームルームや学年の枠を超えて組織される集団による活動など、様々な集団活動を通して、個々の生徒が全人的な発達を遂げ、また所属する集団自体の改善向上を図っていくことをねらいとしている。

生徒が心理的に最も安定して帰属できる「心の居場所」であるホームルームにおいては、情報化の進展など社会の急速な変化の中で、青少年の人間関係の希薄さや他人に共感して思いやる心の弱さなどが指摘され、それがいじめや暴力行為などの問題行動や不登校などの一

つの要因となっていることに留意し、人間関係を形成する力や自己表現力、他者への思いやり、正義感、連帯感や協力心などを育む取組を積極的に進めていく必要がある。また、コミュニケーション能力の育成と多様な人間関係の確立は重要な課題であり、他者の言葉や意見に耳を傾け、自分の考えや思いを適切に表現する力、様々な集団において望ましい人間関係を築く力を高めることが求められている。

また、学校全体の教育活動として展開されるべき特別活動の指導においては、

- ・ 集団や社会の一員として、なすことによって学ぶ活動を通して、自主的、実践的な態度を身に付ける活動である。
- ・ 教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする活動である。
- ・ 生徒の個性や能力の伸長、協力の精神などの育成を図る活動である。
- ・ 各教科、道徳、総合的な学習の時間などの学習に対して、興味や関心を高める活動である。また、逆に、各教科等で培われた能力などが総合・発展される活動でもある。
- ・ 知、徳、体の調和のとれた豊かな人間性や社会性の育成を図る活動である。

などその教育的意義を全教職員が理解して、特別活動の指導を充実させることが大切である。

さらに、今回の改訂では特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成について明確に示された。特別活動の目標は、特別活動の各活動・学校行事の実践的な活動を通して達成されるものであり、その指導計画は、学校の教育目標を達成する上でも重要な役割を果たしている。したがって、全教師が指導に当たるため、全教師の共通理解と協力体制が確立されるとともに、生徒の自主的、実践的な活動が助長できるような全体計画と、これに基づいて、ねらいに基づいた系統的な年間指導計画を立てることが大切となる。

上記を踏まえ、本部会では、次の3点に取り組むこととした。

- 1 よりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる観点から、体験活動や多様な集団からなる活動を基に、生徒の言語活動を一層充実させることをねらいとしたコミュニケーション能力を高める工夫を積極的に取り入れたホームルーム活動の実践
- 2 学校全体の教育活動として展開される特別活動について、教職員で共通理解を図り組織的に対応する必要があることから、学習指導要領改訂の趣旨や要点、特別活動の意義や内容とその取扱いなどについての校内研修の実践
- 3 学校の実態や生徒の発達段階及び特性等を考慮し、各学校の教育目標を踏まえた、生徒の入学から卒業までを見通した全体計画、年間指導計画例の作成

III 研究の仮説

- 1 従来、ともすればその場限りの活動で終わらせがちであった体験活動について、事前にそのねらいや意義を生徒に十分理解させ、活動についてあらかじめ調べたり、準備したりすることなどにより、意欲をもって活動できるようにするとともに、事後に、体験を通して感じたり気付いたりしたことを振り返り、文章等でまとめたり、発表し合ったりする活動を重視し、他者と体験を共有して幅広い認識につなげる活動を充実させる。

このような言語活動の充実を図ることにより、生徒一人一人のコミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築く力を育成することができると考えた。

2 また、学校全体の教育活動として展開される特別活動について、学習指導要領改訂の趣旨や要点、特別活動の意義や内容とその取扱いなどについて校内研修を実施する。

このことで、教職員の共通理解が図られ、組織的に特別活動の指導を展開する協力体制を確立できると考えた。

3 さらに、学校の創意工夫を生かすとともに、学校の実態や生徒の発達の段階及び特性等を考慮し、生徒による自主的、実践的な活動が助長されるよう心がけた特別活動の全体計画と各活動・学校行事の年間指導計画を作成する。

これにより、特別活動を充実させ、人間関係を築く力の育成をはじめ生徒の資質や能力の育成につながる、計画的・組織的な特別活動の指導を学校として展開できると考えた。

IV 研究の方法

本部会では、研究に先立ち、新学習指導要領や関連資料を読み込み、各学校の特別活動の取組の実態などについて話し合いを重ね、共通理解を深めた。

近年の都立高校では、単位制や多彩なコース設置により多様な学習集団が存在しており、学校生活の集団構成は必ずしも一様とはいえなくなっている。新学習指導要領では、そのような様々な集団が、望ましい活動を通して一層豊かで望ましい集団として成長するとともに、個人としても豊かな社会性を育てていくことをねらいとしていることを踏まえ、部会主題を「望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい人間関係を築く力を育成する指導の工夫」とした。

また、これまでの特別活動においては、生徒の自主的・実践的な活動という側面が強調され、系統的に学習していく各教科・科目とは異なって、指導計画に基づいた計画的な指導が行われていない側面もある。しかし、特別活動の目標は、学校における各活動や学校行事の実践を通して達成が図られるものであり、その指導計画は、教育目標を達成するための具体的取組として重要な役割を果たすものである。このような状況を踏まえ、本部会では、校内研修の実施を試みることにし、指導計画例の作成に取り組むことにした。

実践事例Ⅰは、ホームルーム活動において、留学生との交流やプレゼンテーションに向けて、個人の取組を基にした班内での発表、代表の選出、発表内容の検討と、事後に体験を通して感じたり気付いたりしたことを振り返り、発表し合ったりする活動を取り入れ、生徒の言語活動を一層充実させることを目指した指導の事例である。生徒は、グループでの活動を通して組織の一員としての役割と責任を感じながら、段階を踏んだ話し合いによってコミュニケーション能力を身に付けていくことができる。

実践事例Ⅱは、新学習指導要領の内容や特別活動の趣旨・意義を理解することを目的とした校内研修の事例である。高校においては、全教師が共通理解をもつことが課題である。

実践事例Ⅲは、生徒・学校を取り巻く現状や課題を整理しつつ、生徒の入学から卒業までを見通した全体計画例、年間指導計画例の作成についての事例である。教育目標の達成に学校全体で組織的に取り組むためには、その具現に向けて全教師の共通理解を図り、計画的・組織的な教育活動を展開する必要がある。学校の実態と課題を明らかにし、実態にそった全体計画例、年間指導計画例を作成を試みた。

V 研究の内容

1 研究構想

全体テーマ **新学習指導要領に対応した授業の在り方について**

高校部会テーマ **確かな学力の向上を図るための授業等の工夫についての実践研究**

教科等の新学習指導要領のポイント

- ・ 各活動・学校行事の目標の明確化
- ・ 体験活動の一層の充実
- ・ 言語活動の充実・活用の重視
- ・ 社会的な自立を目指した在り方生き方の指導の重視
- ・ 共通に取り扱うべき内容の明示と学校の創意工夫の尊重

教科等における確かな学力とは

- ・ 集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度
- ・ 人間としての在り方生き方についての自覚
- ・ 自己を生かす能力
- ・ 規範意識と健全な生活態度
- ・ 自発的、自治的に活動する態度や能力
- ・ 公共の精神、他者を尊重する態度
- ・ 社会的に自立しようとする態度

現状と課題

〈現状〉 自分に自信がもてず、人間関係に不安を感じていたり、社会性の育成が不十分で、好ましい人間関係を築けない状況がある。

〈課題〉 人間関係を築く力を実践を通して高めるための体験活動や生活を改善する話し合い活動、多様な異年齢の子供たちからなる集団による活動を一層充実させる必要がある。特に体験活動については、体験を通じて感じたり、気付いたりしたことを振り返り、言葉でまとめたり、発表し合ったりする活動を充実させる必要がある。

特別活動部会主題

望ましい集団活動を通して、集団や社会の一員としてよりよい人間関係を築く力を育成する指導の工夫

仮 説

様々な集団活動の中で、言語活動の充実を図ることにより、生徒のコミュニケーション能力を高め、よりよい人間関係を築く力を育成することができる。

具体的方策

全体計画や年間指導計画に基づいた計画的な指導により、活動の意義や目的を明確にするとともに、振り返りやまとめ、発表し合う活動、話し合い活動などの言語活動の充実を図る。

2 実践事例Ⅰ ホームルーム活動の研究授業

科目名	ホームルーム	学年	2年次
-----	--------	----	-----

(1) 単元（題材）名、使用教材（教科書、副教材）

ホームルーム活動「ホームルームや学校の生活づくり」「適応と成長及び健康安全」

(2) 単元（題材）の指導目標

- ・ 進路探索研修旅行についての取組を通して、言語活動を充実させることでコミュニケーション能力を向上させる。
- ・ グループでの活動を通して組織の一員としての役割と責任を探究させ、自主的、実践的な態度を育てる。

(3) 評価規準

	ア 関心・意欲・態度	イ 思考・判断・表現	ウ 技能	エ 知識・理解
単元の評価規準	・ ホームルーム内の組織づくりや仕事の分担処理など、ホームルームや学校の生活の充実と向上を目指し、他の生徒と協力して意欲的に取り組もうとしている。	・ 他の生徒の意見を尊重しながら、ホームルームや学校生活上の諸問題などの解決について考え、判断し、自己の考えを的確に表現している。	・ ホームルームや学校の一員として、生活上の諸問題を解決する方法や仕事を分担処理する技能などを身に付けている。	・ ホームルーム内の組織づくりや仕事の分担処理、学校における多様な集団の生活の向上などの方法を知り、学校生活の充実と向上を図る方法を理解している。

(4) 単元（題材）の指導計画（6時間扱い）

本単元（題材）では、旅行・集団宿泊的行事に位置付けて大分県別府市にある大学で実施する進路探索研修旅行において、生徒が行うプレゼンテーション「我が街、我が誇り」の準備を行う。このプレゼンテーションは、夏季休業中に課した課題「自分の住む街紹介」を基に、研修を実施する大学の留学生に対して自分の住んでいる街について英語で紹介を行うものである。

ホームルーム 40 名を各 10 名 4 班の学習班に分け、この班の中で班員各自が調べてきた地域の発表を行う。その発表を基に班で話し合い、二つの地域を選出する。その二つの地域について班員全員でさらに発表内容を検討して現地でのプレゼンテーションに備える。

	学習内容	学習活動	評価規準
1 (10月)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路探索研修旅行についての説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路探索研修旅行の概要について各クラスの旅行委員から説明 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 旅行委員会で作成した、プレゼンテーション資料を用いて旅行委員が説明する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班を作る。(10名の班4班) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行委員の説明を理解している。(イ・エ) ・ 学習班の班分けを協力して行っている。(ア)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班の班分け 		

<p>2 (10月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 班ごとに発表内容の検討を行う（検討に当たっては英語科に協力してもらう）。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 夏休み中に各自が取り組んだ課題（図1）を配布する。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次週の発表内容の検討を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習班にわかれて、各自の課題を基に、それぞれ発表内容の検討を行う。（図2） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発表の準備を積極的に行っている。（ア） ・ 発表内容を十分に検討している。（エ）
<p>3 (11月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班内発表 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習班に分かれて、全員が自分の準備してきた内容について発表を行う。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時、準備した「我が街・我が誇り」について、学習班内で発表を行う。一人3分程度で班員10名全員が発表し、その内容についてワークシート（図3）にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に発表している。（ア） ・ 学習班内の発表をしっかりと聞き、内容を理解している。 <p style="text-align: center;">（ア・イ・ウ）</p>
<p>4・本時 (11月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に発表された内容について学習班内で話し合いを行う。 ・ 学習班の代表生徒2名の決定 ・ 代表生徒の紹介 ・ 学習班発表の準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班内で発表された内容を基に学習班内で話し合いを行う。 ・ 学習班代表2名を決める。 ・ 学習班の代表者2名がホームルーム全体で紹介し、発表を行う。 ・ 再び学習班に分かれて学習班発表の準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に班内の話し合い活動に参加している。（ア） ・ 話し合い活動の中で自身の考えを適切に表現している。（ウ） ・ 学習班内で協力して発表内容をまとめている。（イ・ウ）
<p>5 (11月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学習班が担当する2地域のうち、1地域について模擬発表を行う。（図4） ・ 各学習班の発表を聞いた内容をワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の担当する地域について計画的に準備を行い、発表している。（エ） ・ 他の学習班の発表を聞き、内容を理解している。（ウ・エ）
<p>6 (2月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路探索研修旅行の振り返り ・ 進路探索研修旅行終了後、各グループで進路探索研修旅行への取り組みを振り返る話し合い活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班に分かれて、それぞれの取組を振り返って、良かった点、反省点をまとめる。 ・ ホームルーム活動全体を振り返るとともに、班長、旅行委員もそれぞれの活動について振り返り、反省点を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班ごとに活動を振り返り反省点を述べ合っている。（ウ・エ） ・ 班長や旅行委員はそれぞれ担当の責任を果たしている。 <p style="text-align: center;">（イ・ウ・エ）</p>

◎ 進路探索研修旅行について

進路探索研修旅行は本校2年次に行われる宿泊研修行事である。大分県別府市にある大学において、大学の留学生との交流や本校生徒のプレゼンテーションなどの研修活動を行う。

10・11月のホームルーム活動は、旅行委員を中心に進路探索研修旅行の、現地でいうプレゼンテーションの準備を行っている。

今年度の進路探索研修旅行は平成23年1月17日から20日までの3泊4日で実施する予定。

◎ 進路探索研修旅行に向けたホームルームでの指導

ア 旅行委員会

進路探索研修旅行に向けた各ホームルームの取組は、基本的に旅行委員によって進められている。旅行委員会は各ホームルームから選出された2～4名の委員からなり、毎週月曜日の昼休みに委員会を開いている。委員会の活動としては、前の週のホームルーム活動の振り返りとその週のホームルーム活動の内容についての検討と確認である。


イ 班長会

進路探索研修旅行に向けたホームルーム活動は学習班での話し合い活動やプレゼンテーション、作業など学習班ごとの活動が中心となる。そこで各ホームルームの学習班の班長と旅行委員との話し合いを行っている。この班長会ではホームルーム活動における課題や検討事項、話し合い活動や作業を進める上での注意点などを旅行委員から班長に伝えている。

ウ 英語科との連携

プレゼンテーション「我が街、我が誇り」は英語で行うこととしており、この事前準備にあたっては、原稿の作成、発表などの各段階で英語科と連携して指導を行った。模擬発表会でも各ホームルームに英語科の教員が入り、指導助言を行った。

図1 夏季休業中の課題（街紹介）

<p>APU 課題ワークシート 夏休み</p> <h2>あなたの町はどんな町？</h2> <p>2年 組 番 名前 _____</p> <p>Step 1 自分分の町について知る・考える。 私が住んでいるのは _____ です。 地理的位置を説明してみよう。</p> <p>有名なもの・場所・食べ物・人はいるかな？</p> <p>僕・私の住んでいる近くにはなにがあるかな？</p> <p>この町のアピールポイントはなんだろう？</p> <p>あなたのお気に入りの場所がありますか</p> 	<p>Step 2 日本語 10 文程度であなたの町を紹介しよう。</p> <p>1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____ 7 _____ 8 _____ 9 _____ 10 _____</p> <p>Step 3 Step 2 を英語にしてみよう。</p> <p>1 _____ 2 _____ 3 _____ 4 _____ 5 _____ 6 _____ 7 _____ 8 _____ 9 _____ 10 _____</p>
---	---

(5) 本時（全6時間中の4時間目）

ア 本時の目標

(7) 学習班内での発表内容を理解し、自身の考えを適切に表現する。

(1) 話し合い活動の中で、他の生徒の意見を尊重する姿勢を身に付ける。

イ 本時の展開

過程	時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法 (ア～エ)
導入	5分	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返り この時間の説明 ワークシートの説明 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の感想を述べ、この発表を基に学習班で話し合いを行うことを説明する。 学習班内で代表生徒2名を決定しホームルームで発表することを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の内容を理解している。(イ)
展開1	10分	<ul style="list-style-type: none"> 学習班での話し合い活動 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>各学習班で自分たちが現地でプレゼンテーションする地域を2つ選出する。 話し合い活動に際しては、各学習班の班長の進行で、「自分がどの地域を選出するべきと考えるか、その理由は何か」についての意見をしっかりと述べ、それについての意見交換を行う。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の発表とその内容についてまとめたワークシートを基に学習班内で感想を述べ合い、意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見をしっかりと相手に伝えている。(イ・ウ) 他の生徒の意見を尊重している。(イ) 学習班内における自己の役割を理解している。(エ)
展開2	10分	<ul style="list-style-type: none"> 代表生徒の紹介 グループ発表に向けての発表内容、分担の準備についての紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 学習班で決定した代表生徒2名をホームルーム全体に紹介する。 学習班で発表する地域、発表の内容、準備の分担について各学習班からホームルーム全体に対して発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 代表生徒2名をスムーズに紹介している。(ウ・エ) 発表内容、準備の分担を十分に検討している。(ア)
展開3	15分	<ul style="list-style-type: none"> 決定した生徒の担当地域について、班員全員で発表内容を検討する。 発表に向けての準備 	<ul style="list-style-type: none"> 各学習班の代表生徒2名の地域について、どのような発表を行うか学習班で検討する。 全体発表に向けてどのような準備を行うか、学習班で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の意見を尊重している。(イ) 学習班内で協力し合っている。(イ・ウ)
まとめ	5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> この時間の内容についてまとめる。 次の時間までの課題について説明 	

(6) 本時の振り返り

ア 進路探索研修旅行への取組を、旅行委員会を中心に進めていくことで、事前準備に取りかかる生徒の意欲を高めることができた。旅行委員はホームルーム活動を主体的に進行することができた。

イ 学習班での話し合い活動の前の班長会で、班内での発表ではワークシートを活用するなどして、「自分がどの地域を選出するべきと考えるか。その理由は何か」をはっきりと意見を述べることを確認した。その結果、班員は他の生徒の発表をしっかりと聞き、内容を理解した上で各自の意見をはっきりと述べ、充実した話し合い活動を行うことができた。

ウ プレゼンテーションは英語科教員の協力を得て英語で行った。教科で学んだことを総合化し、生活や行動に生かす自主的、実践的な態度を育てるという特別活動の教育的意義の一つを果たすことができた。また生徒の言語に対する関心を深めることができた。プレゼンテーション終了後に教師から内容について発問をすることで、聞く側の集中力が高まり、プレゼンテーションをよく理解することができた。

エ 課題としては、ホームルーム活動が班活動中心になることから、旅行委員と班長の打ち合わせが十分にできていないと、学習班での活動が滞ってしまうことである。旅行委員と班長との打ち合わせを充分に行うことで学習班での活動をさらに充実させていく。

今後は、進路探索研修旅行に向けての事前準備をさらに充実させていくとともに、進路探索研修旅行後にも振り返りやまとめを発表し合う活動を行うことで、更に言語活動を充実させていく。

図2 発表内容の検討



図4 模擬発表の様子



図3 ワークシート

2010年度進路探索研修旅行ワークシート			
2010/11/4			
番号	発表者氏名	地域	感想・コメント
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			

班	MEMO
記入者	2年 組 番 氏名

3 実践事例Ⅱ 特別活動に関する校内研修会の実施

(1) 研修のねらい

学習指導要領特別活動改訂の要点の一つに、指導計画の作成について「特別活動の全体計画や各活動・学校行事の年間指導計画の作成」が明確に示され、作成に当たっては、「各教科・科目や総合的な学習の時間などの指導との関連を図る」ことが加えられた。また、特別活動は、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の中核的な指導の場面でもある。

旧来、都立高校にあっては一部に教科以外の内容にあまり関心が示されない向きも見られたが、新しい学習指導要領に基づいて、今後の教育活動を構築して行くべき現在において、特別活動の指導についても、全教職員協力の下“入学から卒業までを見通して”計画的・組織的に展開することが求められている。

各学校は、教育目標や経営計画に基づいて、生徒の実態、学習指導要領改訂の趣旨、特別活動の意義や内容等についての理解と認識を共有し深めながら教職員の共通理解の下、特別活動の充実に組織的に取り組む必要がある。

特に、ホームルームや生徒会や部活動など様々な集団の中で、生徒が互いに理解し合い、高め合い、個人と個人、個人と集団、集団相互が互いに作用し合いながら、それぞれの生徒が全人的な成長を遂げ、また所属する集団自体の改善向上を図っていく集団活動が展開されるためには、担任や担当者だけでなく、全教師の意識と理解、適切な指導が欠かせない。

そこで、今年度の教育研究員の所属する2校において、特別活動の重要性を全ての教師が共有し、特別活動を身近に感じ関心を深める校内研修を試みた。内容として「新学習指導要領について」、「特別活動の全体計画について」、「本校における特別活動について」とすることで、各校における特別活動について教員間で協議・情報交換を行い、指導に反映できるよう設定した。

(2) 研修会の概要

ア 都立A高等学校

実施日 平成22年10月14日(木) 15時から17時まで

実施場所 A高等学校会議室

- 実施内容
- ・ 新学習指導要領について
～改訂の趣旨・要点、特別活動の改訂内容
 - ・ 特別活動の全体計画について
～事前課題「特別活動の全体計画」をもとに
 - ・ 本校における特別活動について①
～事前課題「本校における特別活動について」をもとに
 - ・ 本校における特別活動について②
～実践事例「進路探索研修旅行への取り組み」

- 実施方法
- ・ 管理職に研修会実施許可を得る。
 - ・ 企画調整会議に原案を提出し、参加者を募る。
 - ・ 参加希望者には事前に課題に取り組んでもらい、当日に備えてもらう。

参加者 7名

イ 都立B高等学校

実施日 平成22年11月24日(水)14時20分から15時20分まで

実施場所 B高等学校会議室

- 実施内容
- ・ 新学習指導要領について
～改訂の趣旨・要点、特別活動の改訂内容
 - ・ 特別活動の全体計画について
～事前課題「特別活動の全体計画」をもとに
 - ・ 本校における特別活動について①
～事前課題「本校における特別活動について」をもとに
 - ・ 本校における特別活動について②
～ホームルーム担任の取組実施方法

- 実施方法
- ・ 管理職に研修会実施許可を得る。
 - ・ 企画会議に原案を提出し、参加者を募る。
 - ・ 参加希望者には事前に課題に取り組んでもらい、当日に備えてもらう。

参加者 9名

(3) 当日の様子

両校とも参加者は、日頃から教科指導のみならず、部活動の指導や研修などにも意欲的な教師が多く、急な設定にもかかわらず、今回の研修や事前課題にも大変熱心に取り組んでもらうことができた。

参加予定者にはあらかじめ「特別活動の全体計画」の用紙と別紙の課題を配布し、事前課題という形式で取り組んでもらい、この課題をもとに研修会を進めた。

はじめに研究員から新学習指導要領の改訂に伴う変更点やポイントについての説明を行い、次に事前課題「特別活動の全体計画」を見ながら、それぞれ担当した計画について説明と取り組んだ感想を述べてもらった。

A高校ではさらに、もう一つの事前課題「本校における特別活動について」を基に現在各自が取り組んでいる特別活動について情報交換を行った。その後に、研修参加者全員で「担任になったらどのような観点でホームルームを指導していこうと思うか」について思いや考えを出し合った。「リーダーの育成」、「思いやりのあるホームルーム」、「お互いの良さを見付け合えるホームルーム」、「生徒全員に居場所のあるホームルーム」といった声があった。また、現在取り組んでいる特別活動について話し合い、特別活動(生徒会本部の指導、監査委員、体育祭、文化祭など)について説明があり生徒が主体的に動く取組の工夫が紹介された。

最後に、現在取り組んでいる特別活動の事例として2年次担任教諭から、今年度(平成23年)1月に行われる宿泊行事(進路探索研修旅行)にむけての実行委員会、ホームルームの指導の事例が報告された。この研修会の前日に始動したばかりの旅行委員の指導についてや各ホームルームの指導計画についての説明があり、ホームルームにおけるグループ討論やプレゼンテーションの方法、評価について活発に意見交換がなされ、予定の時間を大きく超えての実施となった。

B高校においては、「特別活動の全体計画」についての協議の後に、「ホームルーム担任の取組実施方法」として本校の実態を出し合いながら、指導の工夫や改善策などを話し合った。また、研究員から、ホームルーム活動で活用できるワークシートを紹介したり、参加者の経験から、特別活動についての配慮事項やホームルーム担任としての心構えなどについて事例を出し合ったりして、課題解決に向けた指導法や教材を共有した。

(4) 成果と課題

研修では「全体計画に取り組んだことで、はじめて特別活動の学習指導要領をしっかりと読んだ」、「特別活動においては評価という考えが難しい」などの声が多く聞かれた。多くの教員にとって担当教科の指導要領や解説を見ることはあっても、特別活動についてしっかりと読み込む機会は少ない。こういった機会に指導要領やその解説などを目にするのができたということは大きな成果といえる。全体計画を作成する意義と必要性についても認識を深めることができた。

急な設定で参加者は多くはなかったが、充実した校内研修となった。こういった校内研修を行うことで、多くの教師の特別活動に対する意識と理解を高め、各学校における特別活動の充実を図っていくことが課題である。

4 実践事例Ⅲ 特別活動の全体計画と年間行事計画の検討

今回の学習指導要領改訂では、特別活動の各活動・学校行事の目標が新たに設けられ、内容やその取扱いが整理されたとともに、特別活動の全体計画及び各活動・学校行事の年間指導計画の作成について明確に示された。

特別活動の目標は、特別活動の各活動・学校行事の実践的な活動を通して達成できるものであり、その指導計画は、学校の教育目標を達成する上でも重要な役割を果たしている。

また、特別活動は全教師が指導にあたるため、教員間の望ましい指導の組織と役割の分担を明確にし、指導計画の作成・実施の過程を重視して、協力体制の確立を図っていくことが必要である。

そこで、研究員の所属する学校において、現在の特別活動の指導計画を、分掌や学年、教科等の協力を得ながら、東京都教育委員会が示している特別活動の全体計画及び年間指導計画の参考様式に整理することを試みた。

この試みを通じて確認できたことは次の4点である。

- (1) 学校の教育目標具現化に向けて、当該校における特別活動の全体を明らかにできる。
- (2) 教職員の共通理解を図り計画的・組織的な指導に資することができる。また、作成の過程そのものが、教員の共通理解を深めることにつながる。
- (3) 指導計画の作成、計画に基づく活動、活動後の反省という一連の過程で評価する必要がある。
- (4) 実践を通して、検証・評価することで、問題点や課題を抽出し、指導計画の改善及び充実させることが重要である。

新しいものを作るというよりは、今、現に行われている内容を整理しまとめることで教職員の共通理解を図り、実践を通じて評価・改善していくことが何より重要との結論に達した。

以下に、作成した全体計画並びに各活動・学校行事の年間指導計画例を示す。

平成22年度 特別活動の全体計画

学校の教育目標	社会の有為な形成者として必要な資質を培い、実践力を身につけた技術者を育成する。		
特別活動の重点目標	①指導組織を整備して、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させる。 ②学習指導要領に基づき、学校行事を適正に実施し行事への積極的な参加を促進する。 ③地域連携による社会貢献を促進し、奉仕活動（防災等）等の実績を積み重ねる。		
	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事
目標	ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。	生徒会活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団や社会の一員としてよりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を育てる。	学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
全体的内容	(1) ホームルームや学校の生活づくり (ア ホームルームや学校における生活上の諸問題の解決、イ ホームルーム内の組織づくりと自主的な活動、ウ 学校における多様な集団の生活の向上) (2) 適応と成長及び健康安全 (ア 青年期の悩みや課題とその解決、イ 自己及び他者の個性の理解と尊重、ウ 社会生活における役割の自覚と自己責任、エ 男女相互の理解と協力、オ コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立、カ ボランティア活動の意義の理解と参画、キ 心身の健康と安全な生活態度や規律ある習慣の形成、ケ 生命の尊重と安全な生活態度や規律ある習慣の確立) (3) 学業と進路 (ア 学ぶことと働くことの意義の理解、イ 主体的な学習態度の確立と学校図書館の利用、ウ 教科・科目の適切な選択、エ 進路適性の理解と進路情報の活用、オ 望ましい勤労観・職業観の確立、カ 主体的な進路の選択決定と将来設計)	(1) 生徒会の計画や運営 生徒総会、生徒会役員選挙、生徒会役員会、生徒会誌の編集・発行など (2) 異年齢集団による交流 新入生を迎える会、3年生を送る会、校内球技大会などレクリエーションにかかわる活動 (3) 生徒の諸活動についての連絡調整 各種委員会による活動 (4) 学校行事への協力 C高五輪（体育祭）、文化祭への協力 (5) ボランティア活動などの社会参加 生徒会による地域美化清掃活動 防災ボランティア講習への参加	(1) 儀式的行事 入学式、卒業式、始業式、終業式、修了式、開校記念に関する儀式 (2) 文化的行事 文化祭、展示会、芸術鑑賞教室、各種講演会 (3) 健康安全・体育的行事 薬物防止講話、セーフティー教室、避難訓練、救命救急講習、体育祭、球技大会、マラソン大会、 (4) 旅行・集団宿泊的行事 校外学習（遠足）、修学旅行、現場見学会、各種合宿 (5) 勤労生産・奉仕的行事 インターンシップ（職場体験）、上級学校や職場の訪問・見学、全校美化清掃、地域清掃ボランティア、防災広報活動ボランティア
ホームルーム活動に充てる時間数	1学年 35時間 2学年 35時間 3学年 35時間	・ 充てられる特別活動の授業に ・ 校内教員組織	ホームルーム活動 : 担任・教務部・生活指導部・進路指導部 生徒会活動 : 生活指導部 学校行事 : 生活指導部・教務部・担任
各教科・科目などとの関連	1 各教科・科目との関連 ・ホームルーム活動の内容項目は、公民科や保健体育科、家庭科の学習内容とも関連する部分が多い。高等学校教育の目標を達成する観点から、実習を中心とした各教科・科目等で学習した知識・技能、能力や態度との有機的な関連を図る。 2 道徳教育との関連 ・人間としての在り方生き方に関する指導を通じてその充実が図られるが、特にホームルーム活動の活動内容(2)及び(3)において集約的に行われる。人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動の全体を通じて行うことにより道徳教育の充実を図る。 3 総合的な学習の時間（課題研究）との関連 ・本校では総合的な学習の時間を「課題研究」の授業として代替している。学校行事の指導計画は、総合的な学習の時間（課題研究）及び特別活動の他の内容などの指導計画と有機的に関連し合うように作成する。 4 生徒指導等との関連 ・生徒指導のねらいである自己指導能力や自己実現のための態度や能力の育成は、特別活動の目標と重なる部分である。深い生徒理解と相互の信頼関係を前提とした生徒指導を充実させる。		
評価など	ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事において、生徒の良い点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにする。		

2 生徒会活動

生徒会活動の目標		学校行事、生徒会活動等の充実を通して、生徒の学校への帰属意識を高める			
生徒会の組織と構成			活動時間・活動場所など		
			<p>1 生徒会執行部 (月・水・金) 生徒会室 12:30～13:00、15:30～16:30</p> <p>2 各種委員会 (不定期) 15:30～16:30</p> <p>3 中央実行委員会 (不定期) 視聴覚室 15:30～16:30</p>		
主な活動(内容・時期など)		指導上の留意点		評価など	
<p>①対面式・クラブ紹介(4月8日)</p> <p>②生徒総会(5月12日)</p> <p>③体育祭「C高五輪」(6月4日)</p> <p>④生徒会役員改選(10月6日)</p> <p>⑤文化祭(10月30日・31日)</p> <p>⑥生徒総会(11月4日)</p> <p>⑦マラソン大会(11月19日)</p> <p>⑧球技大会(12月13日)</p> <p>⑨3年生を送る会(3月9日)</p>		<p>①準備は執行部を中心に始業式後に行う</p> <p>②2週間前に各委員会委員会の活動予定原稿を回収</p> <p>③体育行事実行委員会を中心に各部活動の協力を得る</p> <p>④選管により2週間前～公示告示</p> <p>⑤執行部による中庭ステージの企画立案・運営その他</p> <p>⑥2週間前に各委員会委員会の活動報告・決算原稿を回収</p> <p>⑦体育行事実行委員会を中心に整美委員会などの協力を得る</p> <p>⑧体育行事実行委員会を中心に保健委員会などの協力を得る</p> <p>⑨執行部が中心となり企画立案・運営その他</p>		<p>各活動や行事後には、事後のアンケートを実施し、その活動の評価を行う。</p> <p>評価結果を集約し、次年度の活動の改善に資する。</p>	
指導体制	生徒会の指導は、生活指導部担当者が中心となっていくが、生活指導部全体が組織的な指導体制をとる。各種委員会や実行委員会などの指導は、指導の統一を図りながら各分掌の教員と役割を分担する。自主性や責任感、達成感を育てるために、生徒主体で各活動や行事を実施する。			予算など	<p>生徒会予算 2,043,220円</p> <p>(内訳) 執行部 172,606円</p> <p>委員会 625,654円</p> <p>部活動 1,244,960円</p>
時期	行事名	目標	内容及び対象	時数	評価・他の教育活動との関連など
6月4日	体育祭「C高五輪」	縦割りで構成する団の交流を深め、互いに協力し優勝を目指す	運動種目(クラス種目・団別種目・個人種目) 対象:全校生徒	15	事後に生徒と教員にアンケートを実施。次年度から体育の授業で練習する予定
6月8日	芸術鑑賞教室	古典芸能・音楽・演劇などの芸術性の高い作品を鑑賞し、情操を養う	古典芸能・音楽・演劇など、芸術性が高く生徒の興味を引き出す作品 対象:全校生徒	10	事後に生徒と教員にアンケートを実施。次年度実施する演目の調査も兼ねる。ホームルーム活動で概要を説明。
10月30日・31日	文化祭	日常の学習の成果を発表する場として、クラス発表により自己の向上を目指す	ホームルーム(15クラス)、各科(工業3科)、生徒会執行部、各種委員会、部活動、有志などが参加 対象:全校生徒	20	事後に生徒と教員にアンケートを実施。
11月5日	校外学習	学年・クラスの親睦を深め、ふさわしい身なりや言動などの社会性を養う	各科ごとに施設見学会を兼ねることも検討する 対象:学年別	10	事後に生徒と教員にアンケートを実施。
11月19日	マラソン大会	マラソンを通して、諦めない気持ちと体力の向上を図る	昭和記念公園内のランニングロードを8.4km走る。体調その他により距離や走法を決定 対象:全校生徒	15	事後に生徒と教員にアンケートを実施。体育の授業で持久走の練習を重ねる
12月13日	球技大会	クラスのチームで団結し、協力してひとつの目標に向かって取り組む大切さを育む	体育館アリーナ・剣道場・校庭(バレーボール)・(卓球)・(サッカー) 対象:全校生徒	10	事後に生徒と教員にアンケートを実施。
施設等の活用計画	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭は運動場で競技と応援を行い、救護や得点計算などを建築科および都市工学科実習棟で行う。PTAによる給水施設は格技棟1階に設置する。 ・文化祭では、常時閉鎖されている中庭を開放し、模擬店やステージ発表を行う。 ・球技大会では、体育館アリーナ・剣道場・校庭を利用し、バレーボール・卓球・サッカーを行う。 			予算など	<p>担当分掌で予算計画を行う。</p> <p>(体育行事委員会):体育祭、マラソン大会、球技大会</p> <p>(文化祭実行委員会):文化祭(教務部):芸術鑑賞教室(学年):校外学習</p>

VI 研究の成果

日々の教育活動の中では生徒たちが自ら「なすことによって学ぶ」場面が多々ある。本研究ではそのような成果を目指し、「集団活動」と「言語活動の充実」に焦点を当てて、生徒が「よりよい人間関係を築く力」を育成できる指導とその体制作りについて研究した。

実践事例Ⅰでは、生徒たちは、留学生との交流やプレゼンテーションに向けて、個人の取組を基にした班内での発表、代表の選出、発表内容の検討と、事後に体験を通して感じたり気付いたりしたことを振り返り、発表し合ったりする活動など段階を踏んだ言語活動の積み重ねを実践した。この活動の中で、生徒たちは他者の意見を尊重する姿勢や、自分の考えを適切に表現する方法などを学ぶことができ、またホームルーム内の人間関係が深まるなど、明らかな変容があった。

実践事例Ⅱでは、学習指導要領の内容の周知と、その趣旨・意義について共通理解をもつために、校内研修を行った。少人数での研修となったが、意欲的な意見交換をすることができた。多くの教師の特別活動に対する意識と理解を高め、各学校における特別活動の充実を図っていくことの重要性を再確認できた。

実践事例Ⅲでは、学校の目標に基づいた全体計画や年間指導計画の作成に取り組むことで、特別活動の全体が具体的に整理でき、それをまとめていくことが共通理解につながることを確認できた。

以上の実践から、特別活動の指導の充実とともに、全教師が共通理解を深め、学校として組織的な取組を行うことで、これまで以上の成果が期待できる。

VII 今後の課題

コミュニケーション能力を高めることは、将来や人間関係に不安を感じている子供たちの現状を踏まえると、他者との関わりの中で自分への自信をもたせるためにも、大変重要なことである。自分や他者の感情や思いを表現したり、受け止めたりする語彙や表現力は、他者や集団との関わりの中でこそ磨かれるものであり、よりよい人間関係を築く力の源となる。このような機会をいかに増やしていくか、また継続的・組織的な指導体制をどのように整えていくかが今後の課題である。適切な場面や機会を設定して、内容・方法を検討し、その力を育成していくことが必要である。

どのような教育活動にも目標やねらいがあり、各学校においては、教育目標や学校経営計画に沿った教育活動が展開されている。特別活動は、学校の教育目標を達成する上で重要な役割を果たしており、学校の特色や生徒の学校アイデンティティ形成とも深く関連している。今後、その成果をより一層高めていくためには、校内研修を行って新学習指導要領の内容や趣旨・意義をよく理解し、共通理解を図ること、個々の教師の取組を整理し関連付けしていくこと、教師集団の組織的な協力体制を整えることが必要である。

また、組織的・計画的に特別活動に取り組むためには、学校の実態に合わせた全体計画や年間指導計画の作成が重要となる。必要に応じて特別活動の目標に対する重点目標を設定したり、生徒の発達段階を考慮するなどの他、ホームルーム活動と学年、生徒会活動、学校行事との関連、家庭や地域との連携などにも配慮することが大切である。

平成22年度 教育研究員名簿

高等学校 ・ 特別活動

学校名	課程	職名	氏名
都立富士高等学校	全日制	主任教諭	○ 北條 悠子
都立三鷹高等学校	全日制	教諭	高見 治己
都立田無工業高等学校	全日制	教諭	山本 進一
都立上水高等学校	全日制	主幹教諭	◎ 岡崎 豊

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 統括指導主事 信岡新吾

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
高等学校 特別活動部会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451